

研修担当の先生へ

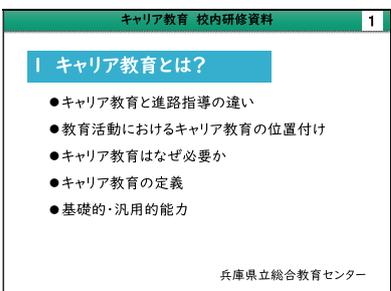
- ・本資料は、スライド資料を使って研修を行う際の参考にお使いください。
- ・スライド資料を印刷し、校内研修で配布することは可能ですが、以下の点にご留意ください。

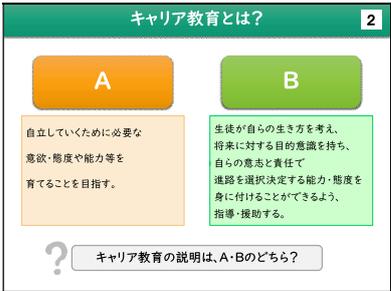
【研修資料の活用条件】

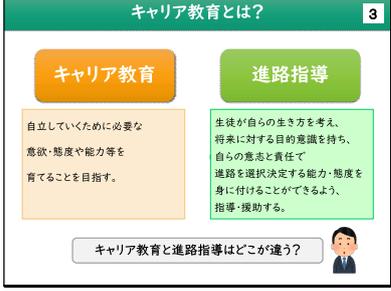
研修資料（引用している箇所を除く）は、下記の条件において活用できます。

- ①出典を明示する。 例：「キャリア教育研修 県立総合教育センター」
- ②資料全体をそのままの形態で活用する。

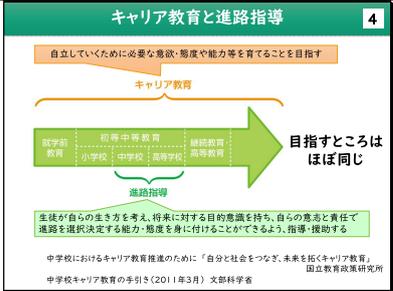
1 キャリア教育とは？

スライド1		
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修は、このような流れで進めていきます。 ・キャリア教育に関する概要をつかむことを目的とした研修です。 	

スライド2		
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の説明は、A・Bのどちらでしょうか？ ・正解はAです。 ・では、Bは何について説明したものでしょうか？ 	

スライド3		
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・Bは進路指導についての説明です。 ・では、次の質問です。キャリア教育と進路指導はどこが違うのでしょうか。同じような、違うような…先生方はどのように説明されますか？ 	

スライド4	
<p>説明原稿例</p>	<ul style="list-style-type: none"> この図をご覧ください。キャリア教育は、中学校と高等学校だけでなく、就学前の幼児の指導に当たる幼稚園・保育所・認定こども園から含みます。 それに対して進路指導は、学習指導要領上、中学校（義務教育学校後期課程）及び高等学校（中等教育学校、特別支援学校中学部及び高等部を含む）に限定された教育活動であるという点が違います。言い方をかえると、キャリア教育の中に進路指導が包含されているということです。 そのような違いはありますが、キャリア教育と進路指導のめざすところはほぼ同じです。ただし、出口指導としての進路指導、つまり卒業後の進路選択に向けた指導と、キャリア教育が同じということではありません。
<p>補足事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の説明を読むことで、進路指導＝出口指導ではないことが分かると同時に、キャリア教育と「目指すところはほぼ同じ」であることを、先生方に伝えることができます。 キャリア教育と進路指導の違いに着目するのは、キャリア教育と進路指導の混同を防ぐことと、キャリア教育が幼少期からずっと続いていくものであることの理解を意図しています。
<p>参考情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> 狭義の「進路指導」との混同により、特に特別活動において進路に関連する内容が存在しない小学校においては、キャリア教育が体系的に行われてこなかったという課題が指摘されてきました。さらに、将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないかと、といった指摘もあります。 <p style="text-align: right;">出典：小学校キャリア教育の手引き P72（令和4年3月）</p>

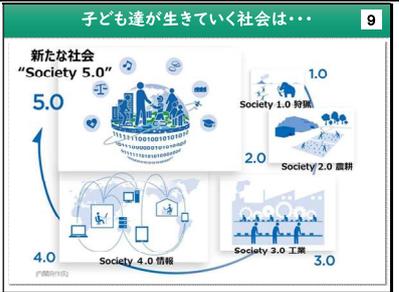


スライド5	
<p>説明原稿例</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇教育という言葉、キャリア教育以外にどのようなものがありますか？ 例：特別支援教育、国際教育、ふるさと意識を醸成する教育、道徳教育、人権教育、健康教育・食育、防災教育、情報教育、金融教育 では、次の質問です。 キャリア教育と、様々な〇〇教育とは、どのような関係でしょうか？
<p>補足事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> この問いは、教育活動におけるキャリア教育の位置付けを考えてもらうことを意図しています。



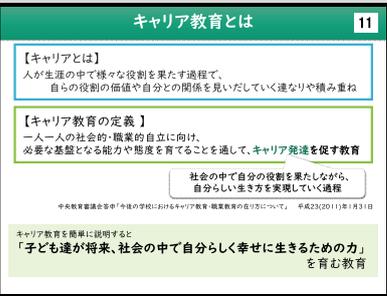
補足事項	・「基盤となる能力を育むものだから必要だ」というのも答えの一つですが、ここではキャリア教育が求められる背景を考えることで、キャリア教育の必要性の理解につながります。
参考情報	教育振興基本計画 教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）に示された理念の実現と、我が国の教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、同法第 17 条第 1 項に基づき政府として策定する計画。（文部科学省）

スライド 9	
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0 という言葉があります。児童生徒が生きていく社会は、まさに Society5.0 の新たな社会です。Society5.0 とは、IoT (Internet of Things: モノ同士がインターネットを通じて連携し、新たな価値を生み出す技術)や AI、ロボット技術が進展し、仮想空間と現実空間の融合と、経済発展と社会的課題の解決の両立が図られた社会を意味しています。
補足事項	・ 児童生徒が社会で活躍する頃の未来を想像した上で、児童生徒に身に付けさせたい力を考えるために、ここで時代背景を確認しておきます。
参考情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0 は我が国が目指すべき未来社会の姿であり、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く新たな社会です。第 5 期科学技術基本計画 (平成 28 年 1 月 22 日閣議決定) において、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」として Society 5.0 が初めて提唱されました。第 6 期科学技術・イノベーション基本計画 (令和 3 年 3 月 26 日に閣議決定) では、我が国が目指すべき Society 5.0 の未来社会像を「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ (well-being) を実現できる社会」と表現しています。(内閣府)



スライド 10	
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・ また、現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性という英語の頭文字を取って「VUCA」の時代ともいわれています。児童生徒が社会に出る 10 年後、20 年後は、さらに将来の予測が困難な時代になっているかもしれません。この VUCA のイメージ図は、AI で画像生成したものです。 ・ このような予測困難な時代だからこそ、児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成することが一層求め

	<p>られています。よって、キャリア教育は、予測困難な時代においてさらにその必要性が高まっているといえます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時代背景を意識することが、自校のキャリア教育を考えていく上で必要になるのですが、それはどのような場面でしょうか？ ・それは、児童生徒に身に付けさせたい力を考える場面です。目の前の児童生徒が働き手となり生きていく時代や社会でどのような力が必要かをまず考え、そこから遡るような形で、今身に付けさせたい力を考える必要があります。Society5.0の社会だからこそさらに重視される力があるかもしれませんが、Society1.0から4.0の社会でも必要とされてきた普遍的な力があるかもしれません。 ・ここまでで、キャリア教育の全体像を漠然と掴んでもらったところで、キャリア教育の定義を確認したいと思います。 	
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0の社会ではどのような力が必要とされるかを考え、意見交換をするのも良いでしょう。 	

スライド 11		
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の定義の前に、そもそも「キャリア」という言葉が指す意味が分かりにくいと思われていませんか？一般的には「職業的な経歴」の意味で使われますが、キャリアの語源は、馬車の轍、つまり人が歩んできた足跡や道筋です。 ・先生方は、自己紹介をする時に、どのように言いますか。〇〇学校の・・・以外にも、自身を紹介する要素はたくさんあります。 ・人は、他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きており、それら全ての連なりや積み重ねがキャリアです。職業的な経歴はキャリアの一部に過ぎません。 ・そして、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育が「キャリア教育」と定義されています。簡単にいうと、「児童生徒が将来、社会の中で自分らしく幸せに生きるため 	

	<p>の力」を育む教育ともいえます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、キャリア発達という言葉も聞きなれないかもしれません。これは簡単にいうと、「自分らしい生き方を実現していく過程」となります。 ・ただ、その過程において、社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度は、ある年齢に達すると自然に獲得されるものでしょうか？ ・児童生徒は発達の段階や発達課題の達成と深く関わりながら段階を追って発達していきます。学校だけでなくあらゆる場所で発達が促されるものではありませんが、学校や教員の働きかけによって、より意図的かつ効果的に育むことができると考えられます。 	
--	--	--

スライド 12						
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度とは具体的にどのような力かを見ていきましょう。 ・それらの力は、基礎的・汎用的能力として整理されています。 (各基礎的・汎用的能力を簡単に説明) ・これらの力は関わり合っているので、どれかを意識して引き上げようとすることで、他の力も引き上げられると考えられます。 ・先に、学校で取り組んでいる「〇〇教育」を生かしながら、キャリア教育を充実させることができる、あらゆる教育活動がキャリア教育とつながっているときましたが、その具体について、基礎的・汎用的能力から考えてみましょう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #008000; color: white; margin: 0;">基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力 12</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; background-color: #f0f0f0; padding: 2px;"> <p>人間関係形成・社会形成能力</p> <p>◆社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力 コミュニケーションスキル チームワーク、リーダーシップ 等</p> </td> <td style="width: 50%; background-color: #e0e0e0; padding: 2px;"> <p>自己理解・自己管理能力</p> <p>◆「やれたい」と考えて行動できる力 ◆自らの思考や感情を律する力や自らを研さんする力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、志願力 ストレスマネジメント、主体的行動 等</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f0e0; padding: 2px;"> <p>課題対応能力</p> <p>◆様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を克服・解決することができる力 ◆従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 情報の理解・選択・処理等、本質の理解 原因の追究、課題発見、計画立案 実行力、評価・改善 等</p> </td> <td style="background-color: #e0f0e0; padding: 2px;"> <p>キャリアプランニング能力</p> <p>◆「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報と適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に計画してキャリアを形成していく力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 学芸・働くことの意味や役割の理解、多様な理解、将来設計、選択、行動と改善 等</p> </td> </tr> </table> <p style="font-size: small; text-align: center; margin-top: 5px;">*各々の学校におけるキャリア教育、職業教育の在り方については、平成23(2011)年 中央教育審議会答申を参照</p> </div>	<p>人間関係形成・社会形成能力</p> <p>◆社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力 コミュニケーションスキル チームワーク、リーダーシップ 等</p>	<p>自己理解・自己管理能力</p> <p>◆「やれたい」と考えて行動できる力 ◆自らの思考や感情を律する力や自らを研さんする力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、志願力 ストレスマネジメント、主体的行動 等</p>	<p>課題対応能力</p> <p>◆様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を克服・解決することができる力 ◆従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 情報の理解・選択・処理等、本質の理解 原因の追究、課題発見、計画立案 実行力、評価・改善 等</p>	<p>キャリアプランニング能力</p> <p>◆「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報と適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に計画してキャリアを形成していく力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 学芸・働くことの意味や役割の理解、多様な理解、将来設計、選択、行動と改善 等</p>
<p>人間関係形成・社会形成能力</p> <p>◆社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力 コミュニケーションスキル チームワーク、リーダーシップ 等</p>	<p>自己理解・自己管理能力</p> <p>◆「やれたい」と考えて行動できる力 ◆自らの思考や感情を律する力や自らを研さんする力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、志願力 ストレスマネジメント、主体的行動 等</p>					
<p>課題対応能力</p> <p>◆様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を克服・解決することができる力 ◆従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 情報の理解・選択・処理等、本質の理解 原因の追究、課題発見、計画立案 実行力、評価・改善 等</p>	<p>キャリアプランニング能力</p> <p>◆「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報と適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に計画してキャリアを形成していく力</p> <p><small>【具体的な要素】</small> 学芸・働くことの意味や役割の理解、多様な理解、将来設計、選択、行動と改善 等</p>					
参考情報	<p>「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 平成 23 (2011)年 中央教育審議会 (答申)</p>					

スライド 13						
説明原稿例	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が行っている様々な活動には、キャリア教育として生かせる「宝」がたくさんあります。ここでは、既に行っている教育活動をキャリア教育の視点から振り返ってみましょう。 ・「キャリア教育の視点から…」というように難しく感じますが、具体的には、「基礎的・汎用的能力の4つの能力のフィルターを通して」振り返ると 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #008000; color: white; margin: 0;">今、既にあるキャリア教育として生かせる「宝」を洗い出す 13</p> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">例 ・教育内容に関する「宝」 ・指導方法に関する「宝」 ・生活や学習の習慣・ルールに関する「宝」 ・体験的な活動に関する「宝」 <small>*キャリア教育をデザインする上で「宝」を洗い出すことは、キャリア教育の重要なプロセスであり、既に実施されている活動の中から見つけることも可能</small></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; background-color: #f0f0f0; padding: 2px;">人間関係形成・社会形成能力</td> <td style="width: 50%; background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">自己理解・自己管理能力</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f0e0; padding: 2px;">課題対応能力</td> <td style="background-color: #e0f0e0; padding: 2px;">キャリアプランニング能力</td> </tr> </table> </div>	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力					
課題対応能力	キャリアプランニング能力					

	<p>いうことです。</p> <p>(時間に応じて、適宜以下の例、もしくは研修担当者が考えた例を示す)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容に関する「宝」でいうと、例えば、社会科で「過疎化が進み、空き店舗が多い商店街の活性化プランを構想」する学習内容の場合、過疎化における課題を見だし、商店街を取り巻く状況や、関係する情報を収集・選択し、活性化プランという課題解決に向けた方策を考えるわけで、これは学習活動そのものが課題対応能力にもつながっていると考えられます。 ・指導方法に関する「宝」でいうと、課題に対して班で多面的に探究させることはありませんか？これはどの力に結び付きそうですか？班で協力するという点では人間関係形成・社会形成能力につながりそうですし、課題の解決に向けての取組と考えると、課題対応能力にもつながりそうです。 ・生活や学習の習慣・ルールに関する「宝」でいうと、定期テスト前にテスト計画表を作成するとか、長期休業前に目標や計画を立てるといった取組等をされていませんか？計画的にというところではキャリアプランニング能力につながりそうですし、自分を客観的に分析するという点では自己理解・自己管理能力を高めることにもつながりそうです。 ・体験的な活動に関する「宝」でいうと、様々な分野の専門家から学ぶ機会を設けることで、その職業を知る機会となり、キャリアプランニング能力を高めることにもつながりそうです。 ・このように、キャリア教育の視点から教育活動を見直し、今取り組んでいる「〇〇教育」を生かしながら、キャリア教育を充実させていきましょう。 	
<p>補足事項</p>	<p>・「基礎的・汎用的能力の4つの能力のフィルターを通して」振り返ると、〇〇教育という名前が付いているものに限らず、あらゆる教育活動とキャリア教育とのつながりが見えてきますので、既にあるキャリア教育として生かせる「宝」を洗い出す作業を校内研修でするのも良いでしょう。</p>	
<p>参考情報</p>	<p>キャリア教育をデザインする「今ある教育活動を生かしたキャリア教育」 (文部科学省 国立教育政策研究所)</p>	